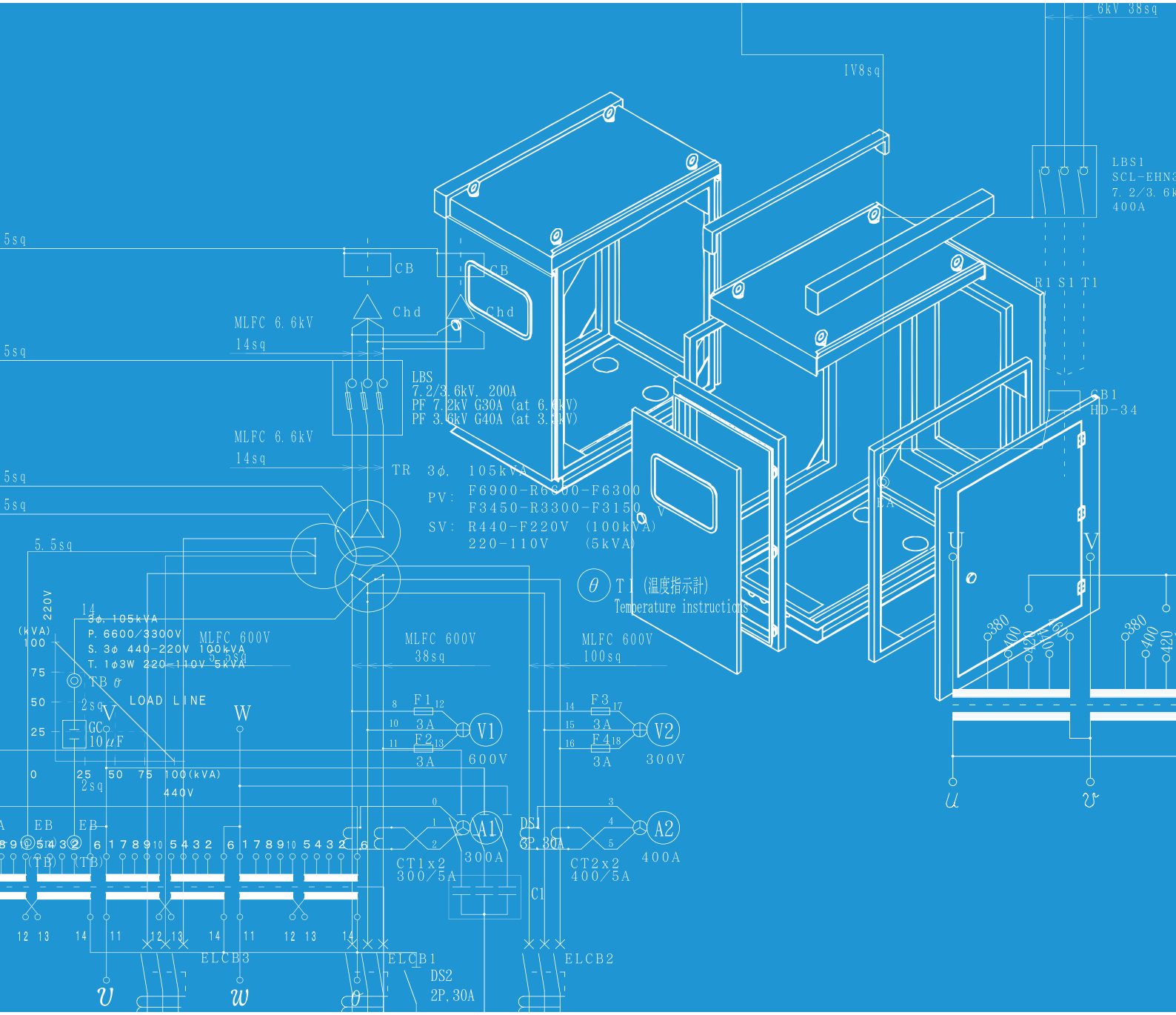
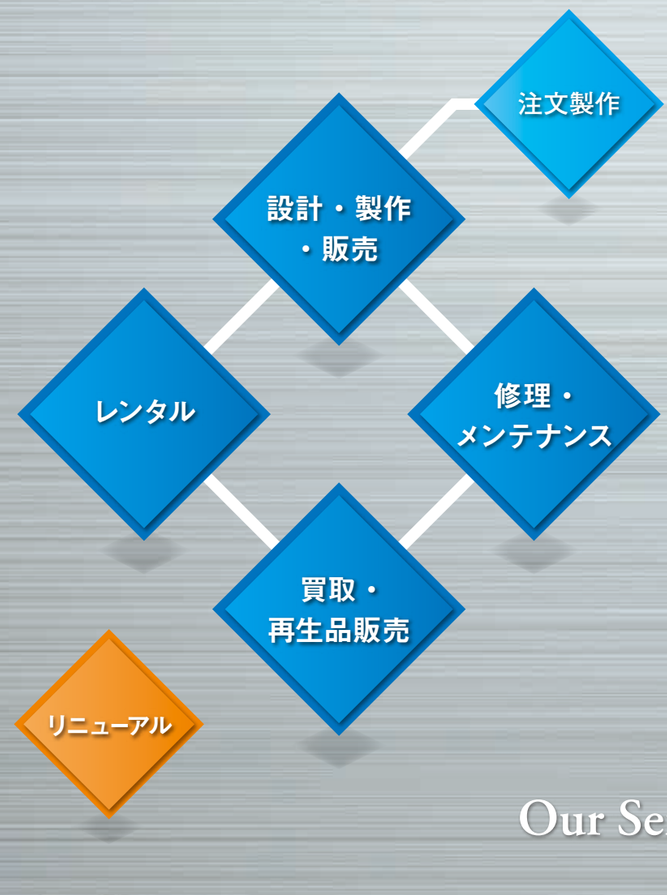

6kV 38sq
IV8sq
LBS1
SCL-EHN3
7.2/3.6k
400A
R1 S1 T1
CB1
HD-34
CB
Chd
MLFC 6.6kV
14sq
LBS
7.2/3.6kV, 200A
PF 7.2kV G30A (at 6.6kV)
PF 3.6kV G40A (at 3.3kV)
TR 3φ, 105kVA
PV: F6900-R6600-F6300
F3450-R3300-F3150
SV: R440-F220V (100kVA)
220-110V (5kVA)
T1 (温度指示計)
Temperature instructions
5.5sq
3φ, 105kVA
P. 6600/3300V
S. 3φ 440-220V 100kVA
T. 1φ3W 220-110V 5kVA
MLFC 600V
38sq
MLFC 600V
100sq
LOAD LINE
GC
10μF
F1
F2
F3
F4
3A
V1
V2
600V
300V
A1
A2
300A
400A
CT1x2
300/5A
CT2x2
400/5A
DS1
3P, 30A
C1
ELCB3
ELCB1
ELCB2
DS2
2P, 30A
U
V
W
u
v
w

私たちにできること

受電設備についてお客様にただ言われたものを納品するにとどまらず、
お客様の抱えている問題点と状況をヒアリングして
技術検討と適切な技術提案をすることです。



Our Service

私たちは受電設備の
総合エンジニアリング会社です

代表取締役社長
本間　和男

当社は、昭和26年12月に初代社長である本間敏男が創立いたしました。
現在は受電設備の設計・製造・販売とともにレンタル(賃貸)を手掛ける会社です。
もうすぐで創業60周年を迎えようとしています。あらためて今、立ち止まって振り返りますと、時代の変遷とともに生まれる新しい技術や多様化するお客様のニーズに正面から向き合い奔走するあっという間の日々でした。時を経て、ようやく受電設備に関わるお客様の課題を解決できるエンジニア集団へと成長できた手ごたえを感じています。我が社の社員一同もよく奮闘しましたがすべてはお客様との関わりの中で得られた「たからもの」です。
これからも常にお客様に寄り添い頂戴した信頼にこたえ共に成長し発展できる取り組みを続けてまいります。

企業理念

信頼の絆で結ばれた
ベストパートナーであり続けたい

我々の仕事は決して華やかな仕事ではありません。
しかし安全を担う製品を扱う以上、間違いは許されません。
些細な目先の利益ではなくお客様からいただいてきた信頼こそがなによりの財産です。

真に価値ある提案を

必要なものを必要な時に。必要十分なものを低コストで
この当たり前のことがすべての基本です。
旧来の資産に依存するだけではなく新しい発想と新しい技術。
決して押し着せではなく利便性とコストとをバランスよく考えた真に価値ある提案。
これこそ我々に課せられた命題です。

社員一人一人により一層の達成感と幸せを

経済的にも精神的にも社員一人一人の豊かな暮らしなくしては、
当社の社会貢献はなしえません。
これからも社員一人一人の成果を正しく評価し、昨日より今日、今日より明日、とより一層の達成感と幸せが得られる環境作りを進めてまいります。

受電設備の
総合エンジニアリング

技術だけを基に製品を作るのではなく、
問題点、使用環境、安全、コストなどの面から
お客様に満足を頂ける受電設備を
ご提案しております。

取扱い商品

- キュービクル式高圧受電設備
- 坑内用キュービクル
- 配電用変圧器
- 特殊変圧器
- 配電盤
- フリッカ対策機器
- 各種配電機器部品
- 電動機
- エンジン発電機
- ケーブルリール

設計・製作・販売
お客様のご注文・ご要望に沿った設計・製作を行います

お客様からご注文いただいた商品を設計・製作することはもちろんのこと、お客様の抱えている問題点と状況をヒアリングし、技術検討と適切な技術提案を含めた設計・製作を行っております。

レンタル
当社の取扱商品はすべてレンタルが可能です

在庫している製品をお貸しするのではなく、設置場所やトランス容量個数、負荷回路数、保護装置、コンデンサ等の諸条件をお客様と打ち合わせ上、ご要望に沿った商品を製作しレンタルさせていただきます。

修理・メンテナンス
いつもベストな状態で使って頂くために

電気設備はトラブルが起きると甚大な被害を引き起こす原因になります。当社では被害を未然に防ぐ修理、設備能力の維持・向上のためのメンテナンスも承っております。

買取・再生品販売
不要になった設備の買取と再生品の販売を行っています

設備の更新などに伴い、不要になったキュービクル、トランス、コンデンサを当社にて査定し、適正価格にて引き取らせて頂きます。また中古で買い取った設備を当社にて整備・試験を行い、再生品として販売も行っております。新品よりも低コスト、また急遽設備が必要になった場合でも新品に比べ短納期での納品が可能です。

リニューアル
キュービクル・変電設備のリニューアルをいたします

現在ご利用中のキュービクルの改造を希望されるお客様は多々いらっしゃいます。
お客様のご希望にお応えできる技術と実績が当社にはあります。是非ご相談ください。

すべてにおいて販売、リース・レンタル、修理、エンジニアリング、技術提案を承ります。
その他、高調波抑制機器やフリッカ補償装置なども取り扱います。
受電設備についてのご相談は、どんなことでも当社までお問い合わせください。

Product

私たちが手掛ける製品は、
妥協のないモノづくりはもちろん、
常にお客様からのフィードバックが
盛り込まれ進化を続けて
まいりました。

キュービクル式高圧受電設備

当社のキュービクルは、超高層ビル建設現場や大規模土木工事現場も含め様々なシーンで活躍してまいりました。設置場所の状況、環境に応じて様々なタイプを用意しております。また多くのカスタム商品を在庫いたしております。

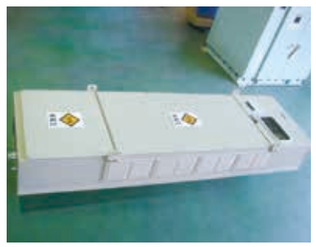
V1000シリーズ

V1350シリーズ

V1800シリーズ

坑内用キュービクル

シールドトンネル工事や山岳トンネル工事など主にトンネル内部での利用を前提に開発された受変電設備（キュービクル）です。長年にわたり培ってきた設計技術をもって、過酷な環境下でも安全に活躍する強靭な構造や防爆型仕様、寸法の短縮を実現し、全機種ヒートラン試験の実施による信頼を得ております。
また当社では、いちはやくコンパクトシールド用坑内キュービクルを開発し、日本で初めてコンパクトシールド工法の現場で採用された実績を持っています。現在ではさらなる小型化、要求電圧の多様化にもお応えしております。



フリッカ補償装置

フリッカ対策機器の納入のみにとどまることなく下記のようなフリッカ対策に係るトータルサービス業務を行っております。

- フリッカ発生予測及び計算書の作成。
- フリッカ対策機器の要不用の検討。
- 電力会社との受電協議への随行。
- 具体的な対策方法及び対策機器の検討、提案。
- 受電系統プランの検討、提案。
- 現場でのフリッカ測定および対策機器の調整・効果測定。
- フリッカ対策機器の定期的メンテナンス。

フリッカ発生の事前検討を行ない効果とコストを勘案した上で最適な提案をさせていただきます。詳しくはお問い合わせください。

アクティブフィルタ方式（例）

高圧分岐箱

高圧分岐箱は高圧回路を安全に複数回路に分岐するために作られた高圧回路の分電盤です。当社ではユニット方式の採用により分岐箱の増減設が可能となっており、各ユニットには300kvarまでの進相コンデンサも設備可能です。そのため、コンデンサユニット箱としての利用も可能です。当社ならではのさまざまな工夫と安全設計が図られております。

本間電機株式会社
HONMA
www.honma-denki.com

会社概要

設立	1962年7月（創業1951年12月）
資本金	4,500万円
代表取締役社長	本間　和男
従業員数	52名
所在地	本社　東京都墨田区錦糸3丁目2番1号 アルカイースト6階 千葉工場　千葉県佐倉市太田2098-12 千葉第二工場　千葉県佐倉市太田2099-2
インボイス登録番号	T4-0106-0101-7099
金融機関	商工組合中央金庫 日本政策金融公庫 みずほ銀行　本所支店 三菱UFJ銀行　錦糸町支店
古物営業法	東京都公安委員会許可 第307730205225号

沿革

昭和26年12月	本間敏男が本間電機工業所を創立 誘導電動機の販売と修理を始める
昭和37年　7月	資本金200万円にて本間電機株式会社を設立
昭和42年　1月	本社ビルを竣工
昭和47年　3月	レンタル部門を設け、電機品のレンタルを始める
昭和47年　3月	墨田倉庫を竣工
昭和48年12月	本社工場を増改築、資本金を1,000万円に増資
昭和53年　7月	資本金2,000万円に増資
昭和55年　7月	千葉県佐倉市の佐倉第二工業団地に千葉工場を竣工 資本金3,000万円に増資
昭和61年11月	有限会社本間エンジニアリングを設立 配電盤・制御盤などの設計製作を開始
昭和61年12月	千葉工場　B棟を増棟築
平成　2年12月	千葉県山武郡芝山町に成田倉庫を竣工
平成　3年　9月	資本金を4,500万円に増資
平成13年　2月	本間和男が代表取締役社長に本間敏男が取締役会長に就任
平成19年11月	千葉工場　C棟を増棟築
平成20年　4月	取締役会長　本間敏男が逝去
平成20年　8月	千葉工場隣接地に機材置場（屋外）を増設
平成28年　5月	千葉工場近隣に千葉第二工場を開設
平成29年　5月	本社工場業務を千葉工場へ移管
平成29年　6月	本社移転
令和　6年　2月	千葉工場近隣に千葉第三工場を竣工
令和　6年　6月	成田空港拡張の為、成田倉庫閉鎖